



ジャパンカップのメイン集団

シクリスムエコー No.184 2011年10月号



2011 ジャパンカップサイクルロードレース…………… 2

第14回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース… 6

第66回国民体育大会自転車競技会…………… 10

2011 ナショナルセレクションシリーズ 実施要項…………… 13
トラック ナショナルチーム選手選考について…………… 13

競技大会結果…………… 14
事務局人事…………… 14
日本代表選手団…………… 14
11月～12月の大会…………… 14
連盟の動き(10月上旬～下旬)…………… 14

日本新記録…………… 15

全日本自転車競技選手権大会トラック・レース photo… 16



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

2011 ジャパンカップ サイクルロードレース

KEIRIN 00
この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



新ジャージお披露目のナショナルチーム

10周目の鶴カントリーの登り、アタックしたダミアン・カルソー（リクイガス）を追う新城とマニュエル・モーリ（ランプレISD）

記念すべき20回目の開催を迎えた今年のジャパンカップ。震災により海外選手の来日にも支障を来すかと思われたが、今年も世界各国から名だたる選手が勢揃いし、記念大会に花を添えた。今大会ではチームプレゼンテーションが金曜日に行われる計3日間の開催となり、宇都宮オリオンスクエアで行われたプレゼンテーションでは、各チーム様々なアピールをして大勢の観衆を楽しませた。また、同日には、今大会日本ナショナルチームの一員として出場する宮澤崇史の、来季サクソバンク・サンガードへの加入が発表されるなどサプライズニュースもあった。

昨年より始まった宇都宮市街地クリテリウムレースには、悪天候の中、昨年同様30,000人の観衆が詰めかけ、宇都宮大通りを埋め尽くした。正式スタート後、集団は棒状一列のハイスピードとなるが、路面がウェットということで、ヘアピンコーナーでは各選手気を配りながらのコーナリング。1回目の中間スプリントでは辻善光（宇都宮ブリッツェン）が、ネイサン・ハース（ジェネシス・ウェルズアドバイザーズ）とのスプリント勝負を制し先



土曜日のクリテ、あと1周のS/Fラインを通過する集団。右に新城・宮澤・土井の顔が見える。



クリテを制したのはスティール・ヴァンホフ



クリテリウムのみ出走の別府

着。9日目、昨年の同レースで長時間逃げ、観客を沸かせた別府史之(クリテリウムスペシャルチーム)がアタックするも間もなく吸収される。10日目、2回目の中間スプリントを前にして宮澤崇史、吉田隼人(共に日本ナショナル)が集団から飛び出し一騎打ちの勝負に。先に仕掛けた吉田を宮澤は差せず吉田が先着。吉田は先に行われた国体ロードでもスプリント勝負を制するなど、学生ながらスプリント力には特筆すべきものがある。15日目、最後の中間スプリントでは再び別府史之がアタック。このアタックにグランツールでも活躍するロマン・クロイツィゲル(アスタナ)が反応。2人のスプリント勝負は別府に軍配が上がった。レースは幾度と無くアタックが仕掛けられるがどの逃げも長続きはせず、最後は集団ゴールスプリントに。猛烈なスピードでゴールラインを切ったのは、ジェネシス・ウェルズアドバイザーズのスティール・ヴァンホフ。昨年9位であった辻善光はゴールライン手前で2人に差されたものの、日本人最高位となる4位に食い込む活躍を見せた。

メインイベントである翌日のロードレースには、主催者発表で73,000人もの大観衆が詰めかけた。これは昨年の70,000人を上回る数字だ。コースはどこも溢れんばかりの人集りである。

午前10時にスタートの号砲。スタート直後飛び出したのは5選手。そこに程なくして3選手が合流し、計8名の逃げ集団が形成された。この集団の中には、今大会で現役を引退する宇都宮ブリッツェン・柿沼草の姿もある。



スタート前、花束をもらう柿沼

大集団はこの逃げを容認するが、海外プロチームが集団前方でじっと睨みをきかす。3周目の山岳賞は地元・宇都宮ブリッツェンの初山翔、6周目は青柳憲輝(シマノ)、9周目は昨日のクリテリウムで優勝したヴァンホフ(ジェネシス・ウェルズアドバイザーズ)が獲った。

タイム差最大4分強開いたこの逃げ



序盤から逃げるナショナルチームの吉田

大観衆の山岳賞ポイント



メイン集団の土井と福島



ゴールスプリント、一番右が勝者のネイサン・ハース、その左が2位の西谷、一番左が3位の佐野

も、9周目の下りセクションで一つの集団に戻り、レースは振り出しに。ここから鈴木真理(シマノ)がアタック。すぐさまクリスティアーノ・サレルノ(リ

クイガス)がチェックし、しばらく2人で逃げるも程なくして鈴木が脱落。サレルノが10周目の山頂を先頭で通過するが間もなく吸収。再び30名弱の

集団が形成されるが、今度はダミアーノ・カルーゾ(リクイガス)が鶴カントリーの上りでアタック。これに新城幸也(日本ナショナル)、マニエル・モー



鶴カントリー前を行くオープン男子のメイン集団



オープン男子のゴールスプリント



オープン女子のゴール、西



オープン女子メイン集団

リ(ランプレISD)が続く。最終周回はこの3名で通過するが、後ろからダミアノ・クネゴ(ランプレISD)が猛追し、すぐに合流。しかし、古賀志の上りで再びクネゴが遅れ、そこに土井雪広(日本ナショナル)が追いつく。新城とモーリの2名が先頭で山頂を通過し、レースは最大のハイライトに。クネゴに追いついた土井が再び遅れ、追走集団はクネゴ、そのまた後方から合流した西谷泰治(愛三工業)、佐野淳哉(NIPPO)、清水都貴(プリヂェストンアンカー)、カルーン、サレルノのリクイガス勢2名の計5名、タイム差は15秒弱。先頭の2名がラスト1kmの看板を通過したところで、モーリがアタックするも伸びない。そこに後続から追いついた佐野がスパート。これに反応したクネゴ、西谷。そこにはネイサン・ハース(ジェネシス・ウェルスアドパイザーズ)

もいる。ラスト300m、コース左側から抜け出てきたのはハース。西谷も食い下がるが、ハースの猛烈なスプリントには敵わず、そのままハースが先頭でゴールラインを切った。2位に西谷、3位は粘った佐野であった。小集団スプリントに強いクネゴは精彩を欠き4位。ジェネシス・ウェルスアドパイザーズは前日のクリテリウムに続き、完全優勝を成し遂げる快挙。日本勢は14年ぶりの優勝まであと一歩であった。

例年、海外プロチームの選手がレース終盤に抜け出し、そのまま逃げ切りゴールというパターンが多かったが、今年は最後まで予想のつかない白熱のレースであった。

ハース優勝コメント。「調子はあまり良くなく、今までで一番辛いレースだった。キャリア最大の優勝だと思う。本当に嬉しい」。(檜原 稔明)

【競技結果】

2011ジャパンカップサイクルードレース (2011/10/22-23 栃木・宇都宮)

ジャパンカップ・クリテリウム (31.0km)

1	VON HOFF Steele	ジェネシス・ウェルス	42:39
2	CIMOLAI Davide	リクイガス	42:39
3	TANNER David	サクパバンク	42:39
9	宮澤 崇史	JPN ナショナルチーム	42:39
16	土井 雪広	JPN ナショナルチーム	42:39
31	吉田 隼人	JPN ナショナルチーム	42:49
55	福島 晋一	JPN ナショナルチーム	43:06
56	新城 幸也	JPN ナショナルチーム	43:06

ジャパンカップ (151.3km)

1	HAAS Nathan	ジェネシス・ウェルス	4:08:35
2	西谷 泰治	愛三工業 R. チーム	4:08:35
3	佐野 淳哉	ダンジエロ&アンテヌチイ	4:08:35



11	新城 幸也	JPN ナショナルチーム	4:08:44
12	宮澤 崇史	JPN ナショナルチーム	4:09:05
14	福島 晋一	JPN ナショナルチーム	4:09:05
15	土井 雪広	JPN ナショナルチーム	4:09:05
	吉田 隼人	JPN ナショナルチーム	DNF

オープン男子 (80.8km)

1	小橋 勇利 愛 媛	2:11:50
2	飯野 智行 群馬	2:11:52
3	山本 元喜 奈良	2:11:52

オープン女子 (42.3km)

1	西 加南子 千葉	1:20:18
2	上野みなみ 青 森	1:20:20
3	針谷千紗子 栃 木	1:20:24

2011 ジャパンカップ・サイクルードレース日本代表選手団

大会名 2011 ジャパンカップ・サイクルードレース

開催場所 日本・栃木県宇都宮市

大会期間 2011年10月22日(土)～23日(日)

派遣期間 2011年10月21日(金)～23日(日)

代表選手団

監督 松本 整 (JCF ナショナルチーム総監督)

コーチ 高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)

沖 美穂 (JCF 強化アドバイザー)

メカニック 藤原富美男 (JCF 強化支援スタッフ)

マッサージ 石田 宗男 (JCF 強化スタッフ)

選手 福島 晋一 (JPCA・トレンガヌ プロアジア サイクリングチーム)

宮澤 崇史 (長野・ファルネーゼピニ・ネーリソットーリ)

土井 雪広 (山形・スキルシマノ)

新城 幸也 (JPCA・ヨーロッパカー)

吉田 隼人 (奈良・鹿屋体育大学)

新しい翼で、世界の空へ。



JAPAN AIRLINES

member of oneworld

第14回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース

室内 250m バンクで日本新記録続出!!

KEIRIN 00

この大会は競輪の補助金を受けて実施されました



2002年の第5回大会以来久しぶりのマディソンに勝ったのは、愛三の西谷・盛

国内初の250m板張り走路である伊豆ベロドロームのこけら落としとなる、第14回全日本自転車競技選手権大会トラック・レース並びに2011全日本オムニウム選手権大会が、平成23年10月14日(金)～16日(日)の日程で開催された。

初日の14日には団抜、チームスプリント、男子スクラッチ、女子500mタイムトライアル、女子ポイントレースと男子オムニウム3種目が行われた。

男子団抜は岐阜チームが大会新で優勝。女子団抜は強化チームがこれまでの日本記録を15秒近く上回るタイムで優勝した。男子チームスプリントは強化チームAが優勝。女子チームスプリントは強化チームAが日本新で勝利した。男子スクラッチは岐阜の高橋翔太が制した。女子タイムトライアルは強化チームの前田佳代乃が大会新で優勝。女子ポイントレースは東京の井上玲美が優勝した。全6種目中3種目が行われた男子オムニウムは、盛一大が2位の西谷と同ポイントながら、合計タイム差で暫定1位となり2日目を迎えることとなった。

二日目となる15日は個抜、女子スプリント、男子ケイリン、男子ポイントレース、オムニウム男女それぞれ3種目が行われた。

女子個抜は井上玲美が大会新で優

男子団体追抜競走、大会新記録で優勝した岐阜県チーム



女子団体追抜競走、日本新記録で優勝した強化チーム



男子チームスプリント優勝の強化A



女子チームスプリント、日本新記録で優勝した強化A



大会新記録で
500mTT優勝の前田



男子スクラッチ、先頭が2位の佐野、2番目が1位の高橋



女子ポイントレース、先頭が優勝の井上



勝し二冠達成。男子個抜は岐南工高の橋本英也が大会新で勝利し、高校生として初の男子個人種目優勝を果たした。女子スプリントは前田佳代乃が優勝し、三連覇と三冠を達成。男子ケイリンは強化チームの新田祐大が初優勝を果たした。男子ポイントレースは早稲田大の入部正太郎が優勝。男子オムニアムは4種目目の個抜で強化チームの西谷泰治が男子シニアの日本新を出すなど健闘し、最終的には盛と同ポイントながらも、合計タイム差で西谷が優勝を果たした。女子オムニアムは強化チームの加瀬加奈子が3種目中2種目を制し、トップで三日目を迎えることとなった。

三日目の16日は男子スプリント、男子1kmタイムトライアル、男子マディソン、女子ケイリンと女子オムニアム3種目が行われた。

男子スプリントは新田祐大が決勝で渡邊一成をストレートで下し二冠達成。男子1kmタイムトライアルは強化チームの中川誠一郎が優勝した。男子マディソンは強化チームが優勝。女子ケイリンは強化チームの石井寛子が制した。女子オムニアムでは5種目目のスクラッチを強化チームの田畑真紀が制し、暫定1位の加瀬に1ポイント差まで迫るが、最終種目の500mタイムトライアルを加瀬が勝利し、優勝を果たした。(上遠野 守弘)



1kmTT優勝の中川

大会新で男子個人追抜競走優勝の橋本



3回戦までもつれ込んだ女子スプリント、優勝は前田(右)



男子ケイリン、優勝は新田(左端)



オムニウム選手権の男子エリミネーション、先頭の2人が1位西谷（奥）と2位盛



男子ポイントレース1位入部（中央）、2位橋本（左）



エキシビションのparaサイクリング1kmTT

男子個人追抜競走

- 1 橋本 英也 岐阜 岐南工高 4:37.235
- 2 近谷 涼 富山 日本大 4:42.852
- 3 矢野 智哉 岐阜 朝日大 4:47.861

男子スクラッチ

- 1 高橋 翔太 岐阜 日本大 20:20.41
- 2 佐野 伸弥 岐阜 大垣レーシング
- 3 畑段 嵐士 京都 同志社大

男子ポイントレース

- 1 入部正太郎 奈良 早稲田大 76p
- 2 橋本 英也 岐阜 岐南工高 64p
- 3 安原 大貴 奈良 マトリックスパワーク

男子タイムトライアル

- 1 強化 西谷・盛 25p
- 2 福島 窪木・久保田 (-1lap) 13p
- 3 早稲田 三浦・佐々木 (-1lap) 10p

男子チームタイムトライアル

- 1 強化A 渡邊・新田・中川 45.012
- 2 強化B 坂本・雨谷・河端 45.844
- 3 JPCA 稲村・矢口・木暮 47.049

男子団体追抜競走

- 1 岐阜 矢野・橋本・中村・高橋 4:19.112
- 2 鹿屋 高宮・野口・山本・長瀬 4:21.357
- 3 JPCA 安東・小岩・加藤 4:41.547

女子500mTT

- 1 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大 35.344
- 2 小島 蓉子 千葉 日本体育大 38.124
- 3 白井美早子 京都 日本競輪学校 38.381

女子スクラッチ

- 1 前田佳代乃 鹿児島 鹿屋体育大
- 2 石井 寛子 茨城 スパ-K アスリート
- 3 渡辺ゆかり 山梨 日本競輪学校

女子ケリッ

- 1 石井 寛子 茨城 スパ-K アスリート
- 2 山原さくら 高知 日東商事
- 3 加瀬加奈子 新潟 日本競輪学校

女子個人追抜競走

- 1 井上 玲美 東京 スパ-K 3:52.340
- 2 田中 まい 千葉 日本体大 3:52.848
- 3 小林 莉子 東京 日本競輪学校 4:01.587

女子ポイントレース

- 1 井上 玲美 東京 スパ-K 31p
- 2 木村 亜美 鹿児島 鹿屋体育大 25p
- 3 吉川 美穂 和歌山 サイカハースあさひ 21p

女子チームタイムトライアル

- 1 強化A 石井・前田 35.640
- 2 強化B 中川・渡辺 36.180

女子団体追抜競走

- 1 強化 加瀬・上野・田畑 3:37.116
- 2 千葉 中村・田中・小島 3:53.305

2011全日本自転車選手権大会 (2011/10/14-16 静岡・日本CSC)

男子自転車

- 1 西谷 泰治 愛知 愛三工業レーシング 11p
- 2 盛 一大 愛知 愛三工業レーシング 11p
- 3 窪木 一茂 福島 日本大 15p

女子自転車

- 1 加瀬加奈子 新潟 日本競輪学校 9p
- 2 田畑 真紀 JPCA タイチ 11p
- 3 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 19p

【競技結果】

第14回全日本自転車競技選手権大会トラックレース (2011/10/14-16 静岡・日本CSC)

男子スクラッチ

- 1 新田 祐大 JPCA JPCU 福島
- 2 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 3 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山

男子1kmTT

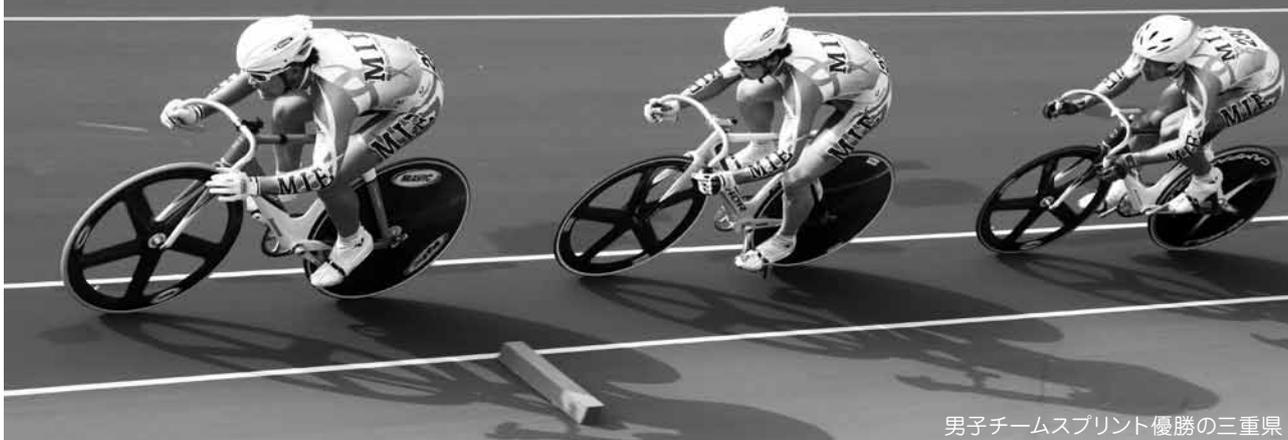
- 1 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本 1:04.014
- 2 稲毛 健太 JPCA JPCU 和歌山 1:05.339
- 3 坂本 貴史 JPCA JPCU 青森 1:05.406

男子ケリッ

- 1 新田 祐大 JPCA JPCU 福島
- 2 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 3 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本

第 66 回国民体育大会自転車競技会

総合優勝(天皇杯)は三重県!



男子チームスプリント優勝の三重県

10月5日から9日、第66回国民体育大会が「おいでませ!山口国体」のキャッチフレーズのもと、トラックレースが防府競輪場、ロードレースが美祢市・長門市で開催された。

トラックレースは5日から8日の4日間、成年・少年各5種目と共通団体種目2種目のほか、女子デモンstrーションも行われ、ロードレースは最終日の9日に成年・少年の各個人ロードレースが行われた。

総合成績(天皇杯)は、チームスプリント、成年1kmTT、少年ロードレースで優勝を勝ち取った三重県が、岐阜県に5点差をつけて見事優勝した。

団体追抜競走優勝の奈良県



成年男子ケイリン、先頭から1位石口、2位和田、3位畑段

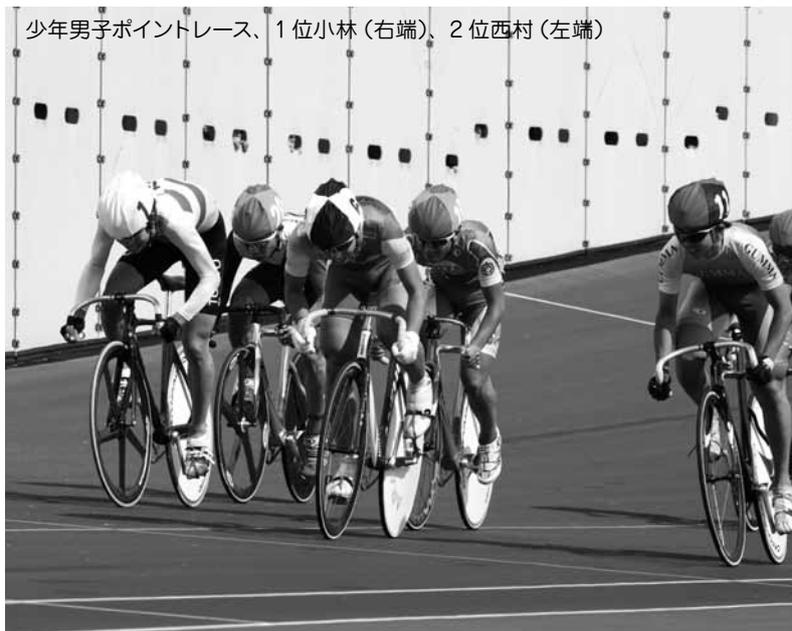


少年男子ケイリン、左から1位奥村、3位有馬、2位清水

成年男子ポイントレース、優勝の井上(中央)



少年男子ポイントレース、1位小林(右端)、2位西村(左端)



成年男子4km 速度競走、左から1位矢野、2位白川、3位西沢



少年男子4km 速度競走、1位橋本(左)と2位大久保



成年男子スプリント、1位古庄(左)と2位飯塚



少年男子スプリント、1位野原(奥)と2位谷口





成年ロードのフィニッシュ



少年ロードのフィニッシュ

【競技結果】

第66回国民体育大会自転車競技会
(2011/10/5-9 山口・防府/美祢・長門)

成年男子スプリント

- 1 古庄 豊全 熊本 日大
- 2 飯塚 力也 山梨 順大
- 3 橋本 凌甫 東京 日大

成年男子1kmタイムトライアル

- 1 谷口 明正 三重 三重車連 1:06.195
- 2 山本 琢也 岡山 朝日大 1:07.513
- 3 加藤 良治 岐阜 順大 1:07.667

成年男子ケリソ

- 1 石口 慶多 兵庫 兵庫県連盟
- 2 和田 拓磨 茨城 明大
- 3 畑段 嵐士 京都 同大

成年男子4km速度競走

- 1 矢野 智哉 岐阜 朝日大
- 2 白川 巧 山口 山口県連盟
- 3 西沢 倭義 京都 明大

成年男子ポイントレース(30km)

- 1 井上 和郎 福井 プリンストンアーカー 21p

- 2 窪木 一茂 福島 日大 18p
- 3 入部正太郎 奈良 早大 17p

少年男子スプリント

- 1 野原 雅也 福井 春江工高
- 2 谷口 遼平 三重 朝明高
- 3 橋本 瑠偉 佐賀 龍谷高

少年男子1kmタイムトライアル

- 1 新山 響平 青森 八戸工高 1:07.930
- 2 佐伯 亮輔 鳥取 倉吉西高 1:08.177
- 3 宮本 隼輔 山口 防府商高 1:08.407

少年男子ケリソ

- 1 奥村 諭志 岡山 岡山工高
- 2 清水 裕友 山口 誠英高
- 3 有馬 尚輝 熊本 秀岳館高

少年男子4km速度競走

- 1 橋本 英也 岐阜 岐南工高
- 2 大久保隆矢 福岡 祐誠高
- 3 高士 拓也 三重 朝明高

少年男子ポイントレース(24km)

- 1 小林 泰正 群馬 高崎工高 38p
- 2 西村 大輝 東京 昭和一学園高 35p

- 3 入佐 直希 鹿児島 南大隅高 33p

男子チームスプリント

- 1 三重 谷口明・堀田・谷口遼 1:04.234
- 2 兵庫 池野・石口・奥村 1:04.561
- 3 山梨 沼田・末木・飯塚 1:05.011

男子4km団体追抜競走

- 1 奈良 山本元・吉田・入部・野口 4:26.879
- 2 岐阜 加藤・高橋・矢野・橋本 4:30.027
- 3 福島 緑川・我妻・窪木・久保田 4:30.603

成年男子個人ロードレース(144.1km)

- 1 吉田 隼人 奈良 鹿屋体大 3:23:04
- 2 中尾 佳祐 埼玉 順大 3:23:04
- 3 山本 隼 山梨 中大 3:23:04

少年男子個人ロードレース(116.0km)

- 1 高士 拓也 三重 朝明高 2:52:20
- 2 橋本 英也 岐阜 岐南工高 2:52:20
- 3 西村 大輝 東京 昭和一学園 2:52:20

総合成績

- 1 三 重 68点
- 2 岐 阜 63点
- 3 岡 山 59点

伊藤超短波の製品が
日本を代表する選手たちを支えています。

最高のコンディションを保ち、ケガからはより早く回復すること。
医療の分野だけではなく、様々なスポーツの現場で、選手のサポートに
伊藤超短波の治療器が活躍しています。



AT-mini

AT ミニ ポータブル 低周波治療器

低周波治療器
管理医療機器(特定保守管理医療機器)
医療機器認証番号 220AABZX00344A01
※本医療機器は専門家の指導のもとにご使用ください

50g

超軽量

12時間

連続使用

3 COMB/PAIN/CARE
つの治療モード

鎮痛・治療

- COMB (鎮痛+治療) ALLタイムケア: トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的。
- PAIN (鎮痛) ONタイムケア: トレーニング中など、現場で起こった急なアクシデントに。
- CARE (治療) OFFタイムケア: 移動中や休憩中などの体を休めている時に。

製造販売元



伊藤超短波株式会社

東京都練馬区豊玉南3-3

www.itolator.co.jp

メディカル事業部

本社: 〒113-0001 東京都文京区白山1-23-15

TEL. 03(3812)1216(代)・FAX. 03(3814)4587

シクロクロス 2011 シーズン ナショナルセレクションシリーズ 実施要項

JCFシクロクロス小委員会

1. 主催 ナショナルセレクションシリーズ各該当大会主催者
2. 後援 (財)日本自転車競技連盟/開催地都道府県自転車競技連盟
3. 協力 日本シクロクロス主催者協力者会(AJOCC)/ (財)日本自転車競技連盟シクロクロス小委員会
4. 趣旨
 - (1)本セレクションシリーズは、2012年UCI世界シクロクロス選手権大会派遣予定のナショナルチームメンバーを選考する大会である。
 - (2)本セレクションシリーズで獲得したポイント上位選手が上記(1)の対象者となる。
5. シリーズ大会
 - 第1戦 2011年10月30日 黒部大会(北陸クロスシリーズ)
 - 第2戦 2011年11月20日 びわ湖マイアミランド大会(関西シクロクロスシリーズ)
 - 第3戦 2011年11月27日 野辺山大会(信州シクロクロスシリーズ)
6. 対象カテゴリー エリート男子・U23男子・エリート女子
7. 競技規則 UCI最新ルールを適応する。
8. エントリー 各該当大会の主催者へ直接申し込む。
9. ポイント配分 ランキング付に以下のポイントを順位に応じて与える。

順位	エリート男子	エリート女子	U23男子
1	120	120	60
2	60	60	30
3	50	50	25
4	40	40	20
5	30	30	15
6	25	25	13
7	20	20	10
8	15	15	8
9	10	10	5
10	5	5	3

10. 賞金 AJOCCより対象カテゴリー上位選手に賞金が贈られる。賞金額については大会当日告知される。
11. ナショナルチーム編成について
 - (1)第17回全日本シクロクロス選手権覇者(エリート男女、ジュニア男子)を中心に編成される。
 - (2)本シリーズの総合ランキング上位選手(U23選手も含む)についてもナショナルメンバー編成ノミネート選手となりうる。
 - (3)ジュニア男子の全日本覇者以外の選手選考についてはJCFシクロクロス小委員会が有望な選手をノミネートに加える。
 - (4)ジュニア女子の選手はエリート女子の中での成績を資料としてJCFシクロクロス小委員会が有望な選手をノミネートに加える。
 - (5)海外居住及び海外滞在選手はUCIレースの獲得ポイント状況、UCI個人ランキング等を資料とした上でナショナルメンバー編成ノミネート選手となりうる。この場合、2011年12月11日開催のレース結果が選考に必要な最終資料とされる。
 - (6)ナショナルメンバー派遣規模(選手およびスタッフ)については、JCF強化とJCFシクロクロス小委員会が協議し派遣案を作成上申のうえ、JCF選手強化委員会において正式決定される。

ロンドン・オリンピックに向けたトラック ナショナルチーム選手選考について

《トラック短距離エリート》14名

■ 男子強化指定選手 8名

渡邊 一成(JPCA・JPCU 福島)・新田 祐大(JPCA・JPCU 福島)・雨谷 一樹(JPCA・JPCU 栃木)
 中川誠一郎(JPCA・JPCU 熊本)・河端 朋之(JPCA・JPCU 岡山)・稲毛 健太(JPCA・JPCU 和歌山)
 坂本 貴史(JPCA・JPCU 青森)・和田真久留(JPCA・JPCU 神奈川)

■ 女子強化指定選手 6名

中川 諒子(新潟・日本競輪学校)・加瀬加奈子(新潟・日本競輪学校)・前田佳代乃(鹿児島・鹿屋体育大学)
 石井 寛子(茨城)・渡辺ゆかり(山梨・日本競輪学校)・山原さくら(高知・日東商事)

《トラック中距離エリート》6名

■ 男子強化指定選手 3名

西谷 泰治(愛知・愛三工業レーシング)・盛 一大(愛知・愛三工業レーシング)・窪木 一茂(福島・日本大学)

■ 女子強化指定選手 3名

田畑 真紀(JPCA・ダイチ)・上野みなみ(青森・鹿屋体育大学)・加瀬加奈子(新潟・日本競輪学校)

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

第44回全日本学生室内自転車競技選手権大会 (2011/10/1-2 東京・東京工業大学)

サイクルカッパ-

- | | |
|-----------|------|
| 1 中島・原組 | 関西大学 |
| 2 岡嶋・水野組 | 関西大学 |
| 3 長谷・東瀬戸組 | 大阪大学 |

◆ 人 事

9月30日付退職

総務部財務課課長補佐

総務部財務課主任兼総務課係員

選手強化部選手強化課主任兼業務部業務課係員

松橋 雅子

前川 恵美

山田 克彦

10月1日付新任

選手強化部選手強化課

総務部総務課

比嘉健太郎

甲斐三南子

2011トラックパーティー日本代表選手団

大会名 2011トラックパーティー

開催場所 静岡・伊豆ペロドローム

開催日程 2011年10月29日 派遣日程 2011年10月28日～29日

代表選手団

監督 松本 整 (JCFナショナルチーム総監督)

コーチ 高橋 松吉 (JCF強化コーチ)・吉井 功治 (JCF強化コーチ)

村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)

アドバイザー 沖 美穂 (JCF強化アドバイザー)

メカニック 鬼原 積 (JCF強化スタッフ)・森 昭雄 (JCF強化スタッフ)

マッサー 酒井 修 (JCF強化スタッフ)・横澤 豪 (JCF強化スタッフ)

選手 中川誠一郎 (JPCA熊本)・渡邊 一成 (JPCA福島)

新田 祐大 (JPCA福島)・坂本 貴史 (JPCA青森)

稲毛 健太 (JPCA和歌山)・雨谷 一樹 (JPCA栃木)

西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシング)

窪木 一茂 (福島・日本大学)

石井 寛子 (茨城)・前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)

山原さくら (高知・日東商事)・中川 諒子 (新潟・日本競輪学校)

渡辺ゆかり (山梨・日本競輪学校)・田畑 真紀 (JPCA・ダイチ)

加瀬加奈子 (新潟・日本競輪学校)・上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)

福島 晋一 (JPCA・トレンガヌ プロアジア)

宮澤 崇史 (長野・ファルネーゼピニ ネリソットーリ)

別府 史之 (JPCA・チームラジオシャック)

新城 幸也 (JPCA・ヨーロッパカー)

土井 雪広 (山形・スキルシマノ)

2011-2012UCI

トラック・ワールドカップ・クラシクス第1戦 日本代表選手団

大会名 2011-2012UCIトラック

ワールドカップ・クラシクス第1戦

開催場所 カザフスタン・アスタナ

開催日程 2011年11月4日～6日

派遣日程 2011年10月31日～11月8日

代表選手団

監督 松本 整 (JCFナショナルチーム総監督)

選手 中川誠一郎 (JPCA・JPCU熊本)

坂本 貴史 (JPCA・JPCU青森)

河端 朋之 (JPCA・JPCU岡山)

渡邊 一成 (JPCA・JPCU福島)シクロ東京

新田 祐大 (JPCA・JPCU福島)シクロ東京

雨谷 一樹 (JPCA・JPCU栃木)シクロ東京

盛 一大 (愛知・愛三工業レーシング)

石井 寛子 (茨城)

前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)

田畑 真紀 (JPCA・ダイチ)

加瀬加奈子 (新潟・日本競輪学校)

上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)

11月～12月の大会

期 日	大会名	種 目	場 所
11月4日～5日	第17回日韓対抗学生自転車競技大会	TR	大韓民国/羅州
4日～6日	第75回世界室内自転車競技選手権鹿児島大会	Indoor	鹿児島/鹿児島アリーナ
4日～6日	'11-'12UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#1	TR	カザフスタン/アスタナ
12日～13日	ツール・ド・おきなわ2011	RR	沖縄/名護他
13日	第58回全日本プロ選手権自転車競技大会BMXレース	BMX	静岡/日本CSC
20日	関西シクロクロス野洲ラウンド (UCIクラス2)	CX	滋賀/野洲
27日	関西シクロクロス野洲山高原ラウンド (UCIクラス2)	CX	長野/南佐久
12月1日～3日	'11-'12UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#2	TR	コロンビア/カリ
10日～11日	第42回全日本室内自転車競技選手権大会	Indoor	関西地区
11日	第17回全日本シクロクロス選手権大会	CX	滋賀/高島

連盟の動き (10月上旬～下旬)

10月11日	トラック短・中距離合宿	於：静岡・日本CSC (～10/19)
16日	平成23年度第5回強化委員会	於：静岡・伊豆ペロドローム会議室
	平成23年度第1回ジュニア強化育成部会	於：静岡・サイテル
21日	平成23年度第2回ロード競技部会	於：栃木・ホテルイタヤ
26日	平成23年度第5回広報部会	於：東京・日本自転車会館3号館3階



日本新記録

■ フライングスタート・200m				
男子プロ	10秒174	渡邊 一成 (JPCA・JPCU福島)	2011/10/16	静岡・伊豆ペロドローム
■ 4km				
男子シニア	4分33秒614	西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシング)	2011/10/15	静岡・伊豆ペロドローム
■ 3km				
女子シニア	3分45秒606	加瀬加奈子 (新潟・日本競輪学校)	2011/10/14	静岡・伊豆ペロドローム
■ 4km団体				
男子ジュニア	4分21秒073	日本 (久保田元気・黒瀬耕平・新山響平・高士拓也)	2011/08/17	ロシア・モスクワ
■ 3km団体				
女子シニア	3分37秒116	強化 (加瀬加奈子・上野みなみ・田畑真紀)	2011/10/14	静岡・伊豆ペロドローム
■ 男子チーム・スプリント・250m×3				
男子シニア	48秒576	学連 (森 一馬・橋本凌甫・末木浩二)	2011/10/14	静岡・伊豆ペロドローム
■ 男子チーム・スプリント・333.33m×3				
男子ジュニア	1分02秒188	日本 (奥村諭志・田中諒士・谷口遼平)	2011/08/17	ロシア・モスクワ
■ 女子チーム・スプリント・250m×2				
女子シニア	35秒640	強化 (石井寛子・前田佳代乃)	2011/10/14	静岡・伊豆ペロドローム
	36秒180	強化 (中川諒子・渡辺ゆかり)	2011/10/14	静岡・伊豆ペロドローム

無限の夢へ、走りだそう。



RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業



第14回 全日本自転車競技選手権大会 **トラック**

IZU VELODROME



女子ケイリン、先頭が優勝の石井



男子オムニウム、右が優勝の西谷、その左が2位の盛



女子オムニウム、手前が優勝の加瀬、奥が2位の田畑

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.184 2011年10月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/富原忠夫

編集人/塚本芳大

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>